

「情報処理学会論文誌 プログラミング」の編集について

論文誌プログラミング編集委員会

1. 対象分野

プログラミングはコンピュータの誕生と同時に生まれた伝統的な分野であるが、コンピュータがある限り不可欠な技術である。並列分散処理やマルチメディア応用など処理内容が高度になるにつれて、プログラミングの重要性は増すことがあっても減ることはないであろう。

「情報処理学会論文誌 プログラミング」は、プログラミングに関するテーマ全般を専門に扱う論文誌である。具体例として次のようなテーマがあげられる。

- プログラミング言語の設計, 処理系の実装
- プログラミングの理論, 基本概念
- プログラミング環境, 支援システム
- プログラミング方法論, パラダイム

これらを応用したシステムの開発事例も対象に含まれる。また、上記以外でも、プログラミングに関する面白い話題であれば対象となる。

2. 編集方針

本論文誌は、プログラミング研究会における発表と論文誌投稿が密接にリンクされている点に特徴がある。論文誌への投稿者が用意する研究会発表用の資料が、内容的にそのまま本論文誌への投稿論文となる。

研究会発表をせずに本論文誌に投稿することはできないが、逆に、本論文誌への投稿をともなわない研究会発表は可能である。そのような発表や、論文が不採録となった発表については、アブストラクトが本論文誌に掲載される。

本論文誌に掲載する論文は、通常のオリジナル論文と、サーベイ論文の2種類とする。どちらの種類であるかは、著者自身の指定によって決まる。論文の記述言語は日本語、英語のいずれかとする。論文の長さには制限は設けない。

3. 査読基準

基本的に、減点法に陥ることを避け、論文の良い点を積極的に評価するという方針を貫く。具体的には、新規性、有効性などの評価項目のうち、どれか1つの点で特に優れていると認められれば採録する。体裁のみが整った論文より、若干の不備はあっても技術的な貢献の大きい論文を積極的に受け入れる。

このような観点から、たとえば次にあげるような、従来は論文としてまとめることが難しかった内容について論じた論文もできるだけ受け入れる。

- プログラミング言語の設計論
- システムの開発経験に関する報告
- 斬新なアイデアの提案
- 概念の整理, 分類法, 尺度の提案
- 複数のシステムその他の比較

4. 投稿から掲載までの流れ

本論文誌への投稿希望者、および研究会での発表希望者は、発表会開催日の約2カ月前までに発表申し込みをする。具体的方法は研究会ホームページ (<http://sigpro.ipsj.or.jp/>) を参照していただきたい。申し込みの際には、所定の申し込みフォームに本論文誌への投稿の有無、オリジナル論文とサーベイ論文の種別指定を明記する。また、アブストラクト(和英両方、和文は600字程度)を提出する。

論文投稿を希望した場合は、研究発表会の約1カ月前までに、別に定めるスタイル基準に従ったカメラレディ形式で論文を提出する。

毎回の研究発表会の直後、編集委員会が開催され、各論文について1名の査読者が決定される。査読報告をもとに、編集委員会は採録、条件付き採録、不採録のいずれかの判定を行い、発表会開催後3週間程度で発表者に採否通知を行う。照会の手続きはないが、条件付き採録の場合は採録のための条件が示される。また、論文改善のための付帯意見が添付される場合がある。この場合は、3週間以内に改良版を作成する。最終的に採録となった論文が、学会の諸手続きや校正を経て掲載される。

英文論文については、2015年1月から Journal of Information Processing (JIP) との連携が始まっており、JIP に正本が掲載され本論文誌にそのプレプリントが掲載される。

本論文誌は、電子図書館(情報学広場:情報処理学会電子図書館)上にオンライン出版され、研究会登録者は発行直後から無料で閲覧できる。また、発行後2年経過した論文誌は、無料で閲覧できる。英文論文が掲載される JIP は、オープンアクセスである。

5. 2018年度の活動のまとめ

2018年度は第119～123回の研究発表会を、以下の日程および場所で開催した。

- 6月 7～8日 岐阜大学 サテライトキャンパス
- 8月 1日 熊本市国際交流会館
[SWoPP—並列/分散/協調プログラミング言語と処理系]
- 10月 31～ 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 11月 1日 箱崎事業所
- 1月 17～18日 福山市ものづくり交流館
- 3月 18～19日 東京大学 駒場Iキャンパス

このうち、第120回が他研究会との連続開催であり、残りの4回が単独開催である。SWoPPの回には特集テーマを定めたが、特集テーマと直接は関係しない発表も受け付けるようにした。

研究会論文誌に投稿された論文は、まず研究会でその内容が発表され、発表会の直後に開催される研究会論文誌編集委員会において議論し、査読者を定めて本査読を行った。

研究会では、例年どおり、投稿の有無にかかわらず、1件あたり発表25分、質疑・討論20分の時間を確保し、参加者が研究の内容を十分に理解するとともに、発表者にとっても有益な示唆が得られるように努めた。さらに、通常の発表形態に加えて、論文投稿をともなわない短い発表（発表20分、質疑・討論10分）も例年どおり募集し、萌芽的な研究等の発表を促進した。

本年度のプログラミング研究会の発表件数は54件であった。2014年度は42件、2015年度は49件、2016年度は45件、2017年度は41件であり、昨年度からは10件以上増加しここ数年で最も多かった。論文誌への投稿件数は本年度18件であった。2014年度は18件、2015年度は29件、2016年度は22件、2017年度は21件であった。また、採択件数は13件であった。2014年度8件、2015年度16件、2016年度13件、2017年度12件であり、採録件数はここ数年と同水準であり、今年度の採録率は約7割であった。今後も発表件数・投稿件数を増やすべく努力をしていく所存である。

ここに、大変短い査読期間にもかかわらず論文査読の労をとっていただいた方々の氏名を掲げる。

2018年度査読者

阿萬裕久	荒堀喜貴	今井敬吾
馬谷誠二	大久保弘崇	木山真人
草刈圭一朗	齋藤新	佐々木晃
笹田耕一	佐藤重幸	鈴木伸崇
関山太朗	田中哲	塚田武志
戸澤晶彦	埴敏博	増原英彦
松田直祐	横山大作	

本号の編集にあたって

2018年度第5回研究発表会
担当編集委員 橋本 健二, 上野 雄大

本号は、2018年度第5回プログラミング研究会（通算第123回）からの採録論文1件からなる。

第5回プログラミング研究会は、2019年3月18～19日に東京都目黒区の東京大学駒場Iキャンパスで開催された。この回はテーマを特に設けず、幅広く論文を募集した。

研究会論文誌への投稿をともなう発表のほかに、論文投稿をともなわない発表を歓迎したことも、これまでと同様である。さらに、この回でも通常の発表（発表25分、質疑20分）に加え、短い発表（発表20分、質疑10分）も募集した。その結果、通常発表5件、短い発表3件、合計8件の発表が行われた。

投稿原稿の査読を議論する編集委員会会合は、開催日の昼休みや研究会終了後に、編集委員ならびに編集委員会が出席を依頼したメンバで現地にて複数回開催した。ただし、投稿論文の著者と利害関係のあるメンバは、その論文についての議論の間は退席している。委員会会合では先の節に記した対象分野、編集方針および査読基準に従って、各投稿論文の評価できる点について意見が交され、その場で可能な限り査読者の選定を行うようにした。各査読者は、編集委員会での議論をふまえ査読を行った。

最終的に、研究会で投稿を希望したうち1件の論文（通常論文）が採録となった。他の発表については1ページの概要を掲載してある。掲載順序は論文、概要のそれぞれについて当日の発表順に従うこととした。

さらに、本号でも、英語による研究公開を促進することを目的として、日本語採録論文の英語化という試みが実施された。これは採録論文著者の希望に基づいて、著者が採録された論文を英語化するものである。なお、採録時の内容を変えないように英語化することと、英文校正を通すことが条件となる。また、採録時の論文の内容と英語化後の論文の内容とに差異がないことは、英語化担当編集委員によって確認され、編集委員会によって承認される。本号では1件の日本語論文が採録され、英語化されて掲載されることとなった。

最後に、研究会開催および論文誌編集にさまざまなご協力を賜った皆様に深い感謝を捧げたい。